令和５年度　学校経営方針

北九州市立八児中学校
校　長　内田　あゆみ

１　校　訓

希望・努力・感謝

朝は希望に起き　昼は努力に生き　夜は感謝に眠る

２　学校教育目標

人との繋がりの中で 心を育み、
夢に向かって自ら学び 考動する生徒の育成

＜めざす学校像＞
○　明るく活気にあふれ、生徒・教師が生き生きと安心して生活できる学校
○　生徒と教師がお互いに信頼と誇り（母校愛＝プライド）がもてる学校
○　清潔で美しく、落ち着いた環境で安全に生活できる学校
○　保護者や地域と連携して「開かれた学校づくり」を推進し、信頼される学校

＜めざす生徒像＞
○　「時を守り、場を清め、礼を正す」生徒　【凡事徹底】
○　自ら考え、自ら学ぶ意欲を持った生徒　【学ぶ意欲】
○　集団の中で、他を思いやり、協力して互いを認め合う生徒　【思いやりの心】
○　チャレンジ精神を持ち、夢に向かって向上の意欲に溢れる生徒　【逞しく生きる力】

＜めざす教師像＞　～すべては生徒のために～
○　教育的な温かさと厳しさにあふれ、知恵を出し、汗を流すことを惜しまない教師
「人を育てる」「誰一人取り残さない」「ひとりひとりに寄り添う」　【情熱・愛情】
○　教師としての資質向上をめざし、自己研鑽を怠らない教師　【変革・挑戦】
「１時間１時間の中に教育のすべてがある」
○　生徒・保護者・地域とのコミュニケーションを図り、信頼される教師【安心・信頼】
○　チームとしての和と輪を大切に、生きがい・やりがいを感じられる職員集団
【チームＹＡＣＨＩＧＯ】

３　本年度の重点目標

（１）規律ある生活習慣の確立

①　全職員・生徒で「凡事徹底」に取り組む。

○　時を守る（時間厳守

○　場を清める（掃除の励行、環境美化）

○　礼を正す（あいさつ、言葉遣い、正しい服装、感謝の気持ち）

②　時と場合に応じて、生徒が「自ら考動する力」を身に付けるよう取り組む。

（２）確かな学力の育成（授業規律・授業改善・家庭学習習慣の確立）と体力の向上

①　授業規律確立（始業と終業の挨拶、正しい姿勢と聞く態度、学習環境の整備）のため、全職員で取り組む。

②　一時間一時間の授業を大切にした「わかる授業」を推進するため、授業改善に努めるとともに、「めあて」を明示し、「まとめ」「振り返り」の時間を確保する。

③　「意欲的に学ぶ」生徒を育てるための手だてを図る。

○「目に見える学力」と「目に見えない学力」

○授業場面における温かなかかわり方

・ほめる（価値づけ・称賛）

・みまもる（期待・信頼・励まし）

・うけとめる（受容・承認・共感）

④　授業において、ＰＣやタブレットなどのＩＣＴ機器の積極的な活用を図るとともに、オンライン授業の充実に努める。

⑤　基礎学力の定着・向上を図るための取組・家庭学習習慣の確立に努める。

⑥　読書の励行・図書館の活用等の読書活動の充実を図る。

⑦　体力の向上を図るため、保健体育科の授業において、授業形態を工夫するとともに、学校全体で運動習慣の定着に取り組む。

⑧　生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的に取り組む。

⑨　指導と評価の一体化に努める。

（３）組織的・機動的な生徒指導体制の確立

①　組織的・機動的な生徒指導体制の確立のため、終礼や生徒指導委員会を有効活用し、教師と生徒とのあたたかい人間関係に基づいた生徒指導を推進する。

②　生徒指導の３つの原則を徹底する。

○　危機回避　「先手を打ち、問題行動が生じない環境づくり」

○　初動が命　「その日にあったことは、その日に対応・処理を原則とし、初期対応を慎重かつ丁寧に」

○　危機管理の「さしすせそ」
最悪を考え、慎重に、素早く、誠意をもって、組織で対応
「報告・連絡・相談・事後の確認と記録」

③　いじめ防止を徹底する。
「いじめ」は「人として絶対に許されない」という認識に立ち、「命」を守り抜くという視点で、学校をあげて即日対応で取り組む。
○いじめや不登校を生まない教育実践の充実を図る。
○生徒の発するサインを見逃さない。
○学校の組織を上げて未然防止・早期発見・早期解決に努める。

④　教育相談等を活用して、生徒の目線に立った生徒理解に努める。

⑤　一人一人に寄り添った、不登校・別室登校生徒への対応を行う。
別室対応を全職員でサポートする。
※「担任をひとりにさせない」学年・学校全体でのフォローアップ

⑥　保護者・ＳＣ・ＳＳＷ・関係機関などとの連携を図る。

⑦　安全教育の推進～避難訓練・防災訓練等を計画的に実施する。
「自分の命は自分で守る」「緊急時最適な考動をとる」

⑧　ネットトラブルを予防するため、情報モラルアップを図る。
・他人を傷つけたり迷惑を掛けたりしないＰＣネット・携帯電話等の使い方やルールについての啓発
・生徒のコンピュータ・リテラシーの育成

⑨　生徒の健全育成のため、薬物乱用、喫煙防止など健康教育を徹底する。

（４）人間性豊かな生徒（豊かな心と健やかな体）の育成

①　集団の一員としての自覚と愛校心の高揚を図るため、学校行事、体験活動等の充実に努める。
○稲作体験活動→地域との連携・食への感謝・八児中プライドの醸成

②　健康で安全・安心な生活を送るため、自分自身だけでなく、他人の大切さも認めることができる人権感覚を育てる。

③　道徳教育の推進
○「心を育てる教育」の推進のため、道徳の時間の確保と指導内容の充実を図る。
○ローテーション道徳の実施
○「新版いのち」「明日への伝言板」などを活用した人権教育の推進に努める。
○生徒のコミュニケーション能力を高め、人間関係を調整する能力や技術を身につけさせるため、学級活動等の時間に「北九州子どもつながりプログラム」（北九州市対人スキルアッププログラム）を計画的に実施する。（年間６時間以上）

④　SDGs の視点から、生徒に自ら考え、活動する取組を推進する。

⑤　生徒会活動（執行部・専門委員会）や実行委員会活動の活性化を図る。
〇生徒会活動（執行部・専門委員会）の充実
〇稲作実行委員会・学年行事における実行委員会活動の充実

⑥　学校図書館教育の推進　→「読書」で心を耕し、豊かにする。
〇朝読書週間（八児タイム）の励行→常に傍らに本がある習慣をつける。
〇学校図書館職員やブックヘルパーと連携して、学校図書館の環境整備に努める。
〇図書コーナー（学年・教科）の充実。
〇教科や委員会活動・調べ学習などで、学校図書館を積極的に活用して，
本に親しむ機会を増やす。
〇学校図書館職員・ブックヘルパーの協力。

⑦　「食育」指導を推進する。
〇学校給食の取組→学校給食週間　残食ゼロに向けての取組
〇稲作活動→田植え・稗取り・収穫・脱穀・収穫祭

⑧　部活動の充実を図る。
〇礼儀やマナーを重んじるなど、人間力の育成に努めるとともに、適正な指導及び運営に努める。
〇限られた時間の中で、効率のよい部活動を推進する。
〇全員顧問制とし、状況に応じて可能な部活動運営を推進する。
〇合同部活動の対応

（５）特別支援教育の推進　　一人一人に寄り添う

①　全校体制による特別支援学級の指導の充実を図る。

②　特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を要する生徒一人一人の教育的ニーズに応えるため、校内研修の充実と関係機関との連携を深める。

③　個々の生徒に寄り添い、生活・学習面の向上を目指した適切な指導や支援を行う。

（６）保小中一貫・保護者や地域との連携を基盤とした信頼される学校づくり

①　保小中一貫・地域連携教育の効果的な取組を模索し、児童生徒の育ちの連続性を意識した教育活動を実践する。

②　積極的な家庭訪問による家庭との連携を強化する。
（欠席者には、電話連絡、３日休んだら家庭訪問）

③　保護者や地域の理解と信頼を得るために、学校・学年・学級通信等、積極的に情報を発信するとともに、ＰＴＡとの連携や地域会議・地域行事へ積極的に参加する。

④　開かれた学校づくりのため、学校評価や地域活動事業推進委員会等を効果的に活用する。

⑤　稲作活動→地域との連携・地域の方々への感謝。

⑥「中学生ボランティア」活動の推奨。
　→地域行事・地域ボランティアへの参加を呼びかけ、小中連携・地域貢献を促す。

（７）組織的・機動的な学校運営と活気あふれる職場づくり

①　機動的な学校運営を行うため、企画委員会や各委員会などを有効に活用する。

②　明るく活気あふれた職場づくりを推進し、“チームＹＡＣＨＩＧＯ”として力を結集し、学年間の情報の共有など、日常の報告・連絡・相談を積極的に行う。

③　心と体の健康管理に努め、ワークライフバランスを推進する。

④　教育公務員としての使命と責任を深く自覚し、綱紀粛正に努める。
　（個人情報等の管理・セクハラ・体罰・不適切な発言・飲酒運転等の防止　他）

⑤　効率的で正確な事務処理を行うため、校支援ステムの活用を推進するとともに、定期的に事務改善会議を行う。

⑥　ＩＣＴサポーター・情報教育担当教員のもと、タブレットを有効活用するための校内研修の充実を図る。

⑦　ＯＪＴ（メンタリング・教職員相互の学び合い）取組による人材育成
　→スキルや経験の豊かな人（メンター）・スキルや経験の少ない人（メンティー）
　→共に学び、授業力・教師力・指導力の向上を図る。

⑧業務改善による業務の効率化→　明るく元気に働ける楽しい職場をめざして！